

「聞き従うことは、いけにえにまさる」

サウルの生涯Ⅱ

サムエル記第一 15章 17節～24節

はじめに

イスラエル最初の王になったのは、サウルでした。サウルの生涯で目立つのは、失敗です。先には、預言者サムエルが来るのが遅いと判断し、サムエルの代わりに全焼のいけにえを捧げ、サムエルに「主の命令を守らなかった」言って叱責されました。今度もまた大きな失敗をします。

1 主の命令。

それは、アマレクを打ち、そのすべてのものを聖絶せよ（1-3）というものでした。アマレクは、モーセが荒野を通過するときに、イスラエルの民に戦いを挑みました。しかし、サウルと彼の民は「アガクと、それに、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しみ、これらを聖絶するのを好まず、ただ、つまらない、値打のないものだけを聖絶したので（9）。

2 主は「わたしはサウルを王に任じたことを悔いる」と言われた（11）。

その理由は、「彼はわたしに背を向け、わたしのことばを守らなかったからだ」のです。

（1） サウルの弁明（13-16）

サウルはサムエルに会うと、「私は主のことばを守りました」と誇らしげに言いました。さらに、民は羊と牛の最も良いものを惜しんだのです。あなたの神、主に、いけにえをささげるためです。そのほかの物は聖絶しました」と。

サウルは、責任を民に押し付けています。そして、惜しんだ理由を「神にいけにえをささげるため」と言いました。もっともそうな理由です。

（2） サムエルが伝えた主のことば（17-23）。

「あなたはなぜ、主の御声に聞き従わず、分捕りものに飛び掛かり主の目の前に悪を行ったのですか」と、サムエルは問いました。

しかし、サウルは弁明します。「私は主の御声に聞き従いました。主が私に授けられた使命の道を進みました。私はアマレク人の王アガクを連れて来て、アマレクを聖絶しました。しかし、民は、ギルガルであなたの神、主にいけにえをささげるために、聖絶すべき物の最上の物として、分捕りものの中から、羊と牛を取って来たのです」と。

サウルは、「私は主の御声に従いました」。「羊や牛はささげものです」と言って、自分と民が主のみことばに完全には従っていないことを、少しも自覚していないのです。サウロはむしろ、良いことをしたと思っているのです。

3 主は主のみことばに聞き従うほどに、全焼のいけにえや、そのほかのいけにえを喜ばれるだろうか (22-23)。

サムエルは答えます。そして続けました。「見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のみことばを退けたので、主もあなたを王位から退けた」(22-23)。

ここは、聖書の真理を明らかにする最も大事な点です。人間の行為が大切か、神のみことばが大切かということです。人間は、自分の判断、行為を一番大切にします。ここでサウルは、ぶんどり物の中で最良のものだから、神にささげようと思ったのです。あまりに素晴らしいものだったので、神は喜ばれると自分で判断したのです。しかしそれは神の命じたことではありませんでした。神はすべての物を聖絶せよと言われたのです。

詩篇の記者はこう言いました。「たとい私がささげても、まことにあなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを喜ばれません。神へのいけにえは、砕かれた霊、砕かれた、悔いた心」(詩篇 51:16-17)。預言者ホセアは、こう言いました。「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼にいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ」(ホセア 6:6)。

神が求めているのは、いけにえではなく、神のみことばに従うこと、神の前に砕かれること、神を知ることです。私たちは、自分が犠牲を払えば、何かを主にささげれば、主は喜んでくださると勝手に思います。しかし、主が望んでおられるのは、ただ私たちが主に信頼し、主のみことばに従うことなのです。

結論

民が王を求め、神は民の求めに聞いてサウロを王としてお立てになりました

た。しかし、サウロは大きな失敗をしてしまいます。

失敗の原因は何でしょうか。

- ① 神が言われたことよりも、自分の判断で、神が喜ばれると思い、分捕り物の中から主にささげものをしたこと。
- ② 主の命令よりも、自分の判断を優先させ、それを正当化したこと。
どんなに有能な人でも、失敗をします。神の前の失敗は、神のみことばよりも、自分の判断を優先することから起こります。

イエス様のゲッセマネの祈りをもう一度しっかり心に刻みましょう。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにはではなく、あなたのみことばのように、なさってください」。

私たちがすべきことは、主のみことばを守ることであって、それを度外視して、こうすれば主はお喜びになるだろうと勝手に判断した行くと、大きな失敗をしてしまいます。

自分のこれまでの道を反省し、悔い改めるべきは、悔い改め、しっかりと主のみことばに従っていきましょう。

私たちが神のみことばに従わなかったとって、私たちが神様から見放され、滅んでしまうのではありません。私たちには、イエス・キリストによって罪の赦しが与えられています。そのために、救い主がおいでになったのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるので

す。」(ヨハネ第一4：10)

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

(黙示録3：20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き16：31))